

6月号　令和8年5月29日発

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地
[Tel045-911-0149]
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



子ども時代に考えていたこと

副校長　井上　和浩

職員玄関前の紫陽花が淡いピンクやブルーに色づいてきました。

先日、俳優の竹中直人さんの講演を聞く機会がありました。小さいころ「自分じゃない自分になりたかった。」と思っていたそうです。それで役者になられたのかと合点しました。印象に残ったご自身のエピソードを2つ紹介します。1つ目は、足が速く 200m 走でトップを走っていたそうですが、ゴール手前で急に恥ずかしくなり父を見つけたのでそこに向かって U ターンしたとのこと。2つ目は徒競走で、先頭でなく、なぜかビリの子に興味があって見ていたとのことです。小さいころからかわった子で個性的だったとおっしゃっていました。また、ご両親から愛情たっぷりに育てられたこともお話しされていました。お父さんはよく映画に連れて行ってくれ、お母さんは何かとよく面倒をみてくれたそうです。クリスマス会に呼ばれ、お母さんがプレゼントを用意してくれたのですが、中身は赤チンと絆創膏でした。お母さんいわく「こういうものはいくつあっても困らないから」と。お母さんも個性的だったようです。竹中さんは照れくさそうに時折懐かしそうに、はにかみながら話されていました。このほかにも楽しいお話がたくさんありましたが、またの機会にしたいと思います。

子どもは大人が思いもよらないような、いろいろなことを考えて過ごしています。また関心事も10人いれば 10 通りです。

さて、学校では、ひとり一人を大切にした教育活動をおこなっています。一口に大切にすると言っても、様々な手立てがあります。1つは「その子の興味・関心を知る。」です。竹中さんは講演でご自分のことを言われていましたからそうなのかと分かりましたが、大人が日頃から丁寧に接し、話を聞かないと知ることはできません。

子どもたちに「今、何にはまっているのかな？」と聞くと話がはずむことがあります。するとよりよい関係性が築けて、子どもたちとわたしたち大人との距離が縮まります。こつは、休み時間に聞くことです。おたがいにリラックスしていますし、授業中だと思わぬ脱線につながりかねません。「〇〇さんは、詳しいね。」「すごいね、よく知っているね。」などと相づちをうちながら聞くと、にこにこしながらたくさん話してくれます。

また、聞いた話を授業にうまく取り込むこともできます。ただ、いつも興味あることと学習内容が一致するとは限らないのが苦労の種です。ですから、できるだけたくさんの興味・関心事をつかむ必要があります。

当たり前ですが、我々は、小学生のお子さんのことは一部しか知りえません。今、何に興味があって、普段どんなことを考えて生活をしているのか？特に最近はスマホが普及し、子どもたちが間接的に知りえる情報は飛躍的に増えました。大人顔負けで、いろいろなことをよく知っていますし、興味や関心の対象が多様化しています。昔は情報が少なかったのである程度予想がついたものです。

「毎日何を考えて登校してくるのか。」「どんなことに興味を持っているのか。」それらを知ることで、よりよい関係が生まれ、子どもたちが充実した学校生活を送ることができます。

6月6日の土曜参観では、学校での様子を見ていただきますが、きっとたくさんのうれしい気づきがあると思います。

ちなみに前述の竹中さんは、5月24日（日）の NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」に松永 久秀役で登場されていました。みなさんはご覧になりましたか。